



匠からの メッセージ

前川製作所守谷工場（茨城県守谷市）

三上和則氏

のは、第3回日本溶接協会マイスターに認定された三上和則氏（67）。

前川製作所守谷工場（茨城県守谷市）で産業用冷凍機の容器、配管などの溶接を長年にわたって手掛ける三上氏は、ステンレス、アルミ、チタンのJIS技能者資格の他、溶接作業指導者や溶接管理技術者2級を持つ溶接のエキスパートといえる存在だ。

「溶接に関わって40年、自分なりに工夫と鍛錬を重ねてきた。培った技術と経験を次世代に引き継ぐのも、これからの役割」と語る

青森県出身の三上氏は高校卒業後、神奈川県内の溶接企業に入社。全国の原子力発電所をはじめとした様々な溶接の部で2回の優

は、様々な材質や形状の溶接に取り組むとともに、社外コンクールにも出場。東京都溶接技術競技会の被覆アー

次世代への継承がこれからの役割

勝（1997年、2005年）を果たすとともに、05年の第51回全国溶接技術競技会では4位入賞の成績を遂げている。また、ボイラー溶接士溶接技能競技全国大会でも2回の全国優勝を果たしている。

現在は同社のユニッツプロジェクト部門で溶接工程全体を管理することともに、後進を指導。数多くの後輩が東京都代表として全国競技会に出場を果たしている。

三上氏は東京都溶接協会が行う、溶接技能研修会の講師を務める。今回の日溶協マイスターの認定の一報を受け「持てる技能と技

「見て」「考えて」学ぶ溶接

量を広く一般に広めるは難しい面もあるが、伝道師的な役割を担う必要がある」と改めて考えたという。「一般導ができるよう心がける人に溶接に対する興味を持ってもらう」とも、溶接士からの疑問については、時には「若い人が溶接を熱心に学んでくれる姿には素直に感動をする」と語る。

溶接の指導時には、朴訥と語る口調と同時に、年齢を感じさせない、どしりとした溶

「社外の研修で他社の溶接士を指導するのロードからは、安心感と説得力が同時に感じられる。

「自分の技術と経験を次世代に引き継いでいくためにも、自分自身精進していきたい」と、未来を担う溶接士の育成という新たな目標に挑戦する決意を語ってくれた。



都協研修会で指導する三上氏